

地域と共に創るまちづくりプラン

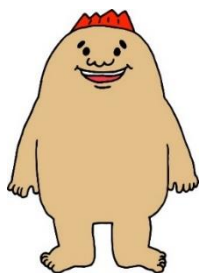
(地域活性化計画)



鹿児島市

(目次)

I 総論	1
1 策定の背景	
(1) 本市の特性	1
(2) 合併地域の特性	1
(3) 合併地域を取り巻く現状	2
①少子高齢化の進行による人口減少	2
②新型コロナウイルス感染症拡大による社会の変化	3
2 策定の主旨	4
3 事業の展開	4
4 位置づけ	4
5 進捗状況の管理	5
6 計画期間	5
7 SDGsとの関連性	5
8 庁内関係課との連携	5
II 各地域のプラン	6
吉田地域	6
桜島地域	10
喜入地域	14
松元地域	18
郡山地域	22
III 連携事業	26
資料編	27



リキニョン



マルニョン



メガニョン



ベビニョン

I 総論

1 策定の背景

(1) 本市の特性

本市は島津氏の城下町として発展し、「郷中教育」という独自の制度により、政治・経済だけでなく、文化芸術などさまざまな分野において優れた人材を輩出しているほか、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産である「旧集成館」などにおける殖産事業が、明治以降の近代化に大きな役割を果たすなど、世界に誇りうる個性にあふれた歴史と文化が築かれています。

また、コンパクトな都市機能が集積した魅力ある都市空間を形成し、南九州の中核中核都市として着実な発展を遂げるとともに、郊外地域においては、市街地の眼前に広がる雄大な桜島や波静かな錦江湾の世界的にも稀有な自然景観をはじめ、多様な生き物がすみ自然環境などの豊富な資源を有しています。

さらに日本の南に位置し、古くからアジアをはじめとした海外との交流拠点として栄えてきました。日本列島を南北につなぐ新幹線の南の発着点である鹿児島中央駅をはじめ、九州縦貫自動車道や南九州西回り自動車道などの高速交通網、離島航路の発着機能を持つ鹿児島港や大型クルーズ船の接岸が可能なマリポートかごしまなど国内外の交流を支える基盤を備えており、国際線を有している鹿児島空港と短時間で結ばれています。

(2) 合併地域の特性

平成16年11月1日に、隣接する吉田町、桜島町、喜入町、松元町及び郡山町と合併し、本市は人口60万人の県都として新たな一步を踏み出し、旧町の地域を管轄する支所がそれぞれ設置されました。

合併した5地域（以下「合併地域」という。）は、自然、歴史や文化など豊富な資源を有しており、吉田地域のニガウリ、桜島地域の桜島大根、喜入地域のスイートコーン、松元地域の茶、郡山地域の早掘りタケノコなど、地域の特性を生かした農産物の生産のほか、吉田・郡山地域の畜産、桜島地域のブリ等の養殖などが行われています。

また、合併地域は市中心部から近く、通勤・通学、通院や買い物などの面で、日常生活圏は一体化しています。

合併後、合併特例債の活用などによるハード面の整備を進めるとともに、ソフト面では「ぐるっとかごしまスタンプラリー」をはじめとする地域間交流など、合併地域の特性を生かしつつ、「速やかな一体化と均衡ある発展」に向けて取り組んできました。

一方で、人口減少や高齢化の進行により、地域活動や農林水産業の担い手不足、空き家の増加などの活力低下も見られることから、「交流人口」・「関係人口^{※1}」の拡大や地域の資源・特性を生かした産業等の振興など、活力の維持・向上に向けた取組が急務となっています。

※1 総務省「関係人口ポータルサイト(<https://www.soumu.go.jp/kankeijinkou/about/index.html>)」によると、「定住者や観光客でもない、地域と多様に関わる人々」をいう。

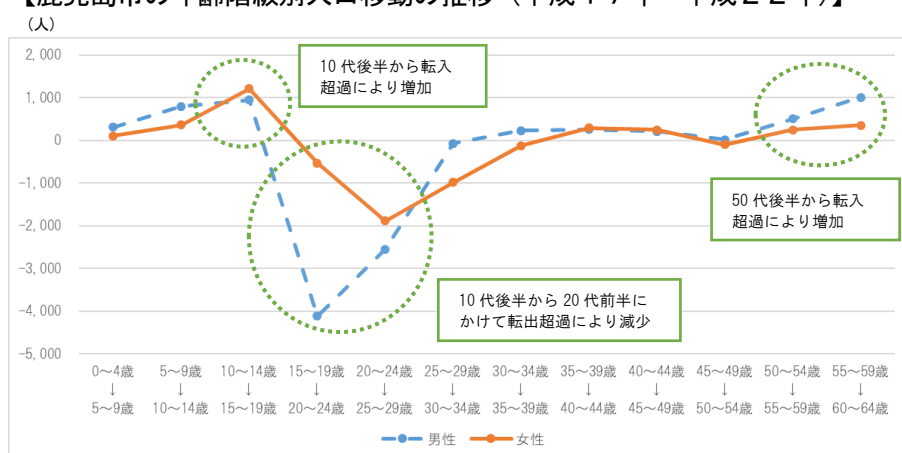
(3) 合併地域を取り巻く現状

① 少子高齢化の進行による人口減少

「鹿児島市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（以下「人口ビジョン」という。）」によると、本市は平成25年をピークに人口減少局面へ移行した可能性が高いとされています。また、同年には死亡数が出生数を上回り、自然動態が減少に転じています。さらに20代は転出超過となる傾向にあり、その多くが県内の他市町村のほか、福岡市や熊本市、宮崎市などの九州圏へ転出しています。

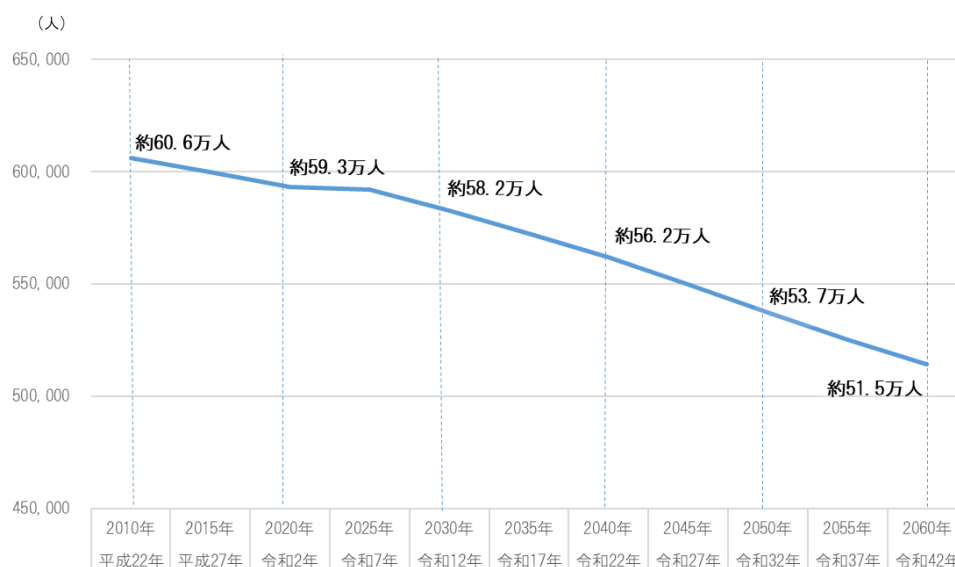
こうした現状を踏まえ、人口ビジョンにおける令和42（2060）年の本市人口の将来展望は51.5万人を維持することとしています。

【鹿児島市の年齢階級別人口移動の推移（平成17年→平成22年）】



資料：地域経済分析システム（RESAS）（出典：総務省「国勢調査」）

【本市将来人口の展望】



資料：平成22・27年及び令和2年は国勢調査による実績値。令和7（2025）年以降は人口ビジョンに基づく。

松元地域を除く4地域では人口減少に加え、人口に占める65歳以上の割合が桜島地域で5割を超えるなど、高齢化が急速に進行しています。

また、松元地域においてもベッドタウン化の進行により人口が増加する地区がある一方、周辺の地区では人口減少の影響が見られます。

【合併地域における年齢区別の人口割合（令和4年10月住民基本台帳人口）】

地域	人口	年齢区分		
		0歳～14歳	15歳～64歳	65歳以上
全市	594,653人	13.6%	58.0%	28.4%
吉田地域	9,820人	10.6%	49.2%	40.2%
桜島地域	3,690人	7.3%	41.4%	51.3%
喜入地域	10,731人	11.0%	49.2%	39.8%
松元地域	17,609人	20.4%	56.4%	23.2%
郡山地域	6,910人	11.3%	47.5%	41.2%

②新型コロナウイルス感染症拡大による社会の変化

新型コロナウイルス感染症の拡大は、市民生活や地域経済、さらには人々の価値観や行動などあらゆる面に影響を与えています。

その一方で、コロナ疲れを感じている割合が高いとされる20代・30代を中心とした若年層で、地方への移住や出身者の地元回帰の意向が高まっています。背景にはウェブ会議システムの普及などによる働き方の変化、自然豊かな環境への魅力、都市型の仕事中心から地方での生活重視へのライフスタイルの変容などがあります。

また、長期化するコロナ禍で、デジタル化が急速に進行し、オンライン消費の拡大などによる消費者の行動変容が進むとともに、コロナ禍により打撃を受けた観光業界においては、オンラインを活用した観光や「マイクロツーリズム^{※2}」などの新たな動きも見られます。

※2 自宅から1～2時間程度の移動圏内の「地元」で観光する近距離旅行の形態をいう。

2 策定の主旨

合併地域においては、これまで「速やかな一体化と均衡ある発展」に向け、ハード・ソフト両面からの取組を進めてきました。

しかしながら、人口減少や新型コロナウイルス感染症による影響を受ける中、合併地域の活力の維持・向上を図るためには、合併地域が有する豊富な資源を住民や地域団体等とともにさらに磨き上げ、新たな魅力を創出していく必要があります。

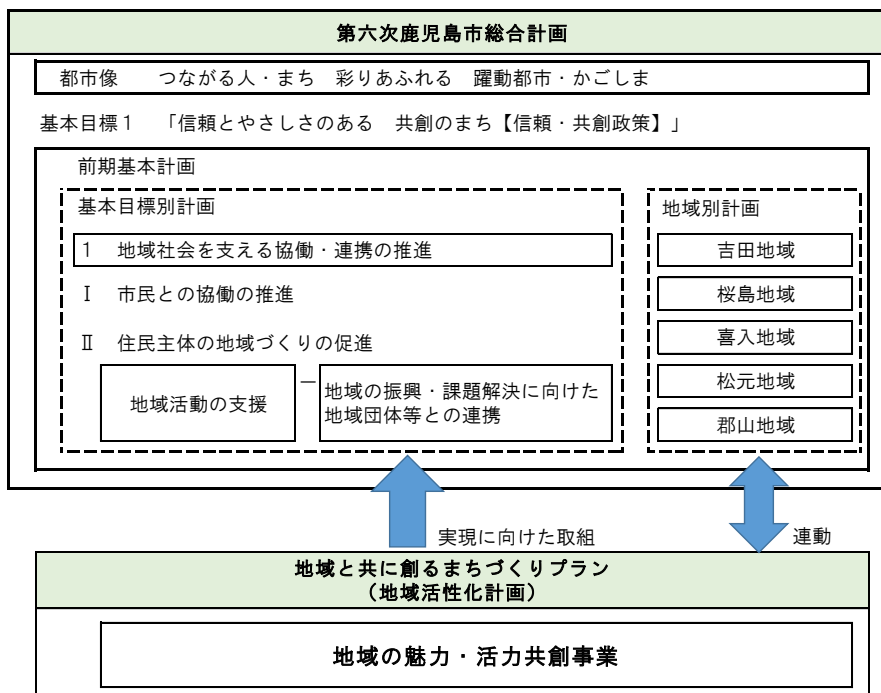
「地域と共に創るまちづくりプラン（以下「プラン」という。）」は、住民とともに個性豊かな地域づくりを進めるため、若年層の地方回帰や観光等の新たな動向など社会経済情勢を踏まえ、にぎわいのある市街地に近く、周辺自治体と隣接する地理的な特性も生かしながら、交流人口・関係人口等の拡大や地域の特産品の販路拡大などの取組をさらに効果的に展開していこうとするものです。

3 事業の展開

各地域においては、地域の現状や課題を把握し、地域団体等による協議の場である地域懇話会などの意見をもとに、地域づくり推進課に配置する地域活性化アドバイザーの助言も踏まえ、各地域のプラン（6頁から25頁参照）にまちづくりの目標や方向性を定め、「地域の魅力・活力共創事業」として取組を展開することとします。

4 位置づけ

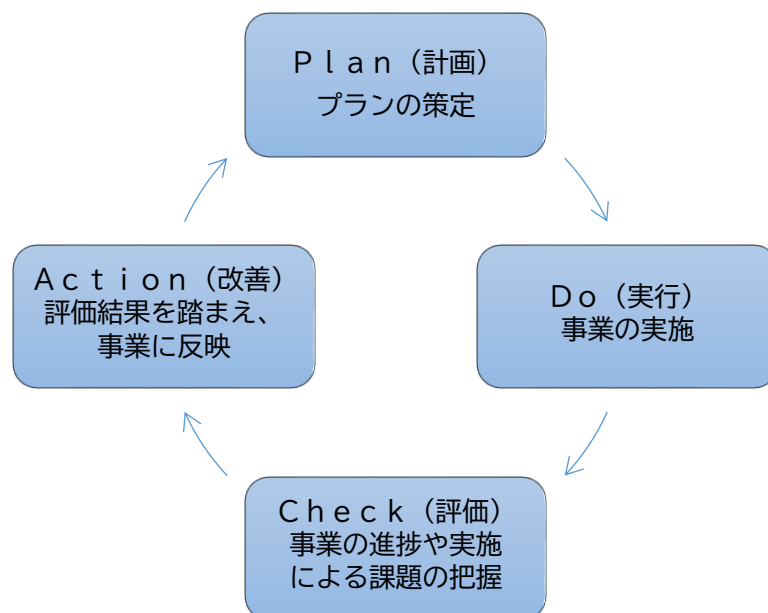
プランに基づく「地域の魅力・活力共創事業」の実施を通じて、第六次鹿児島市総合計画の基本目標「1 信頼とやさしさのある 共創のまち【信頼・共創政策】」の実現を図るとともに、同計画の地域別計画と連動し、合併地域の活力の維持・向上を目指します。



5 進捗状況の管理

各支所においては、プランに基づく「地域の魅力・活力共創事業」の実効性を上げるために、PDCAサイクル（Plan：計画、Do：実行、Check：評価、Action：改善）に基づく適切な進捗管理を図り、課題等を把握し、効果的な事業実施に生かします。

また、地域懇話会に計画策定、事業の企画立案、進捗状況の把握や実施による課題をそれぞれの段階で報告し、意見や提言をいただき、事業の効果的な実施に向けた改善等に生かします。



6 計画期間

令和5年度・6年度の2年間とします。

また、進捗状況の管理を行う中で、期間についても検討することとします。

7 SDGsとの関連性

SDGsとは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称で、平成27年9月に国連サミットで採択された17のゴールからなる国際目標です。

このプランにおいても、特に関連性の高いゴールの達成に向け、魅力と活力のある地域づくりに取り組みます。



8 庁内関係課との連携

本市全体として人口減少が進行する中で、店舗の減少や公共交通機関の減便などによる生活利便性の低下への対応、移住希望者の支援などについて、全庁的に取り組んでいます。

地域懇話会などで出された意見や課題等について、庁内の関係課と共有し、連携して取り組みます。

Ⅱ 各地域のプラン

吉田地域

1 管内の現状

(1) 沿革

吉田地域は、本市の北部に位置し、河川沿岸や幹線道路沿道の平坦地と丘陵部の住宅団地、森林と山間部の農村集落で構成される、緑豊かな自然環境に恵まれた田園地域です。

古くは大隅州吉田院と称し、中世に大隅正八幡宮（現在の鹿児島神宮）の神領として吉田氏が領した後、永禄5（1562）年から島津氏がこの地を治めるようになり、天正15（1587）年には始禰郡より鹿児島郡に編入されました。

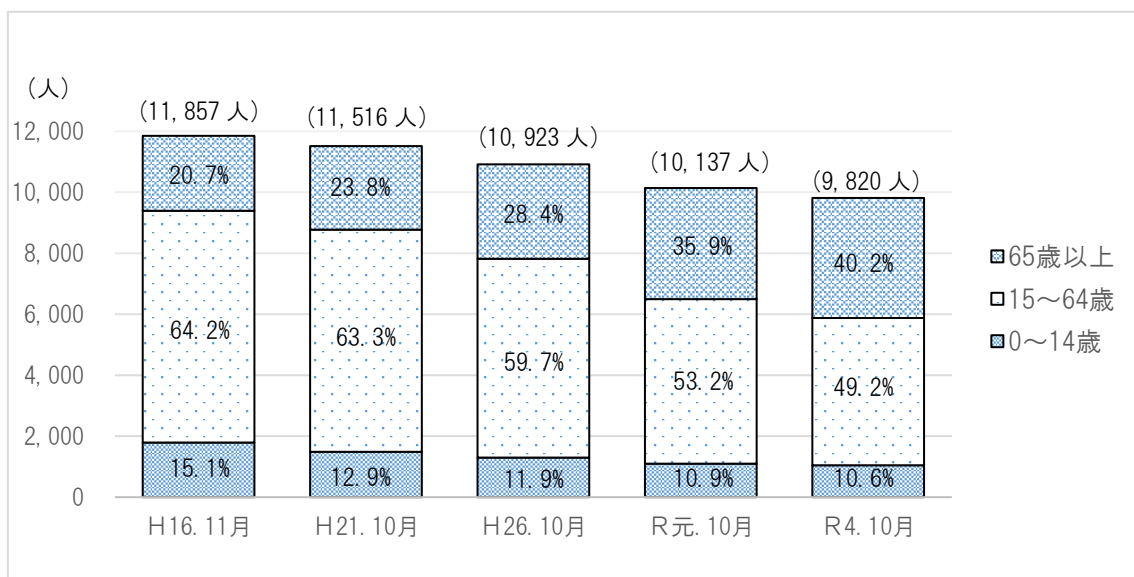
明治22年の市制町村制の実施に伴い、吉田郷が吉田村となり、昭和47年11月の町制施行により吉田村を吉田町に改称し、平成16年11月1日に桜島町、喜入町、松元町及び郡山町とともに鹿児島市と合併しました。

合併後は、吉田小学校の新築移転、本城、宮、吉田小学校区における地域活性化住宅（市営）や大原公園、市道奥之宇都線宇都トンネルなど生活を支える基盤を整備するとともに、SNSや交流事業などを通じた魅力の発信など、地域間交流の促進に取り組んでいます。

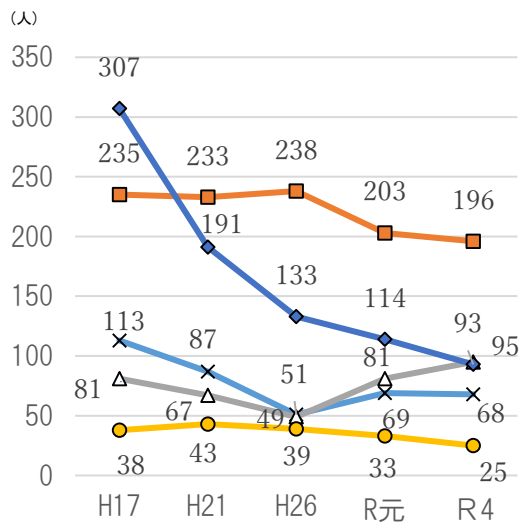
(2) 人口等の推移

地域内の人口は、合併以降減少傾向にあり、65歳以上の人口の割合は高くなってきています。また、児童生徒数については、ほとんどの学校で減少傾向となっており、特に同世代が一斉に入居した牟礼岡団地においては子の世代が多く転出したことにより、牟礼岡小学校の児童数は大きく減少しています。

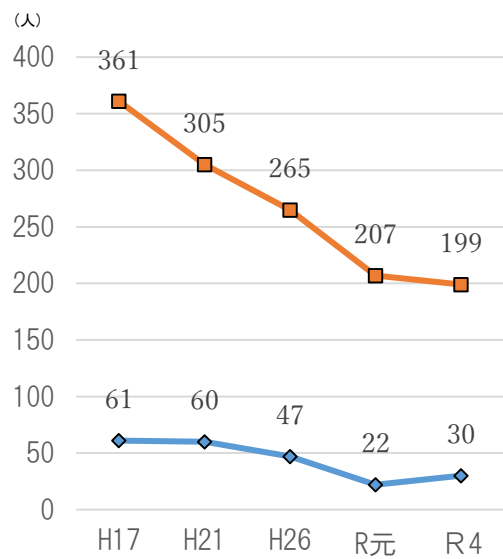
○住民基本台帳人口の推移



○児童・生徒数の推移（各年5月1日現在）





× 吉田小学校 ■ 本名小学校
 △ 宮小学校 ● 本城小学校
 ◆ 牟礼岡小学校



◆ 吉田北中学校 ■ 吉田南中学校

(3) 主な地域資源

<p>旧吉田小学校跡地（東佐多町・西佐多町）</p> 	<p>吉田地域北部に位置し、グラウンドは主に地域の高齢者のグラウンドゴルフ練習場として利用され、音楽室や家庭科室、視聴覚室などに使用していた校舎が残されています。</p> <p>また、九州縦貫自動車道の始良インターチェンジから車で5分程度と交通の利便性にも富んでいます。</p>
<p>秋の田園風景（東佐多町）</p> 	<p>吉田地域は稲作が盛んで、地域内には多くの田が存在し、周りの山々とともにのどかな田園風景を形成しています。田に映り込む自然の様子や緑の豊かさ、穂が実り黄金色となった景色など、四季折々の風景を見ることができます。</p>
<p>田之神石像（東佐多町ほか）</p> 	<p>「タノカンサー」と親しみを込めて呼ばれる田之神は五穀豊穡の神で、その石像は農民たちの豊作を願う心から生まれ祭られたものです。</p> <p>鎮守神社境内にある「東下の田之神」は市の有形民俗文化財に指定されており、高さ120センチで左手におわんを持ち、今にも踊り出しそうな石像です。</p>

<p>吉田文化体育センター（本城町）</p> 	<p>体育館は全国や県の各種スポーツ大会、合宿や講演会の会場として利用され、施設周辺には多目的屋内運動場、屋外運動場、テニスコートがあり、休日には地域外から多くの人を訪れます。</p> <p>また、周囲には桜やモミジの植栽もあり、春、秋の行楽時期には花見や紅葉狩りを楽しむ人でにぎわいます。</p>
<p>ニガウリ</p> 	<p>吉田地域で生産されるニガウリは「スタミナチャンピオン」の名で県内をはじめ、関西方面にも出荷されています。</p> <p>ビタミンが豊富で、食物繊維・カロチンが多く含まれる野菜で、山東菜、小松菜、ナバナやミズナなどの新鮮野菜とともに、本城町の「輝楽里よしだ館」でも購入できます。</p>

2 地域懇話会における主な意見等

吉田地域においては、プラン策定に向けた地域懇話会を4回開催しました（開催状況は資料編を参照）。主な意見等は以下のとおりです。

- 旧吉田小学校跡地は、音楽室等に使用していた校舎が残存し、水道やトイレの設備も整っており、グラウンドの芝生もきれいに整備されているので、子どもたちが楽しめるコンテンツがあれば、訪問者も増えてにぎわうと思う。
- 田んぼでどろんこになるイベントは、子どもたちにとって特別な体験になるし、はだして遊ぶことで体幹を鍛えることができる。
- イベントの開催については、民間事業者等と連携して魅力ある施設を有効活用することで、より効果が高まるのではないか。
- 吉田文化体育センターで弁当の企画販売ができればより便利になると思うし、地域の魅力も発信できるので楽しみでもある。
- イベントの開催は交流人口の拡大につながるが、定住を促す施策や地域の子どものための支援にも取り組むべきだと思う。

3 管内の課題

- (1) 就学・就職などに伴う転出により若年層の人口が減少しており、地域の活力やにぎわいが低下しつつあります。
- (2) 緑豊かな自然環境やニガウリなどの特産農産物など、地域の資源の魅力が十分に生かされていません。
- (3) 宅地造成や企業立地に適さない山間部や交通不便地等に未利用地があるほか、農業従事者の高齢化などにより、使われていない農地が増加傾向にあります。

4 課題解決に向けた方向性等

(1) 目標

「子どもの笑い声でにぎやかなまちにしたい」といった地域の声をもとに、「子どもの笑い声響く 吉田のまちづくり」を理念として掲げ、子どもを対象とした事業を展開することで、地域の活力や潤いを創出し、にぎわいのある地域を目指します。

(2) 方向性

年少人口の占める割合が高い吉野地域や始良市に隣接する強みを生かし、子育て世帯をターゲットに、地域の魅力ある資源を活用して、体験型施設の整備やイベント開催、食を通じた吉田の魅力をアピールすることで、交流人口の拡大と地域の活性化を図ります。

(3) 事業の展開

①子どもが集う吉田の体験型施設の整備

子どもも安心して遊べる場の創出に向け、ペダルなし二輪遊具を用いた競技会などを行うとともに、旧吉田小学校跡地において体験型施設の整備を検討します。

②子どもが楽しめる「吉田DEわくわく」の開催

地域コミュニティ協議会などと連携し、田畑や川、旧吉田小学校跡地で、子どもも楽しめる郷土色あふれるイベントを実施し、地域内外の交流を深めます。

③子どもも喜ぶ吉田の弁当販売

吉田文化体育センターを利用する子どもとその保護者を対象に、同センターで地域産品を活用した弁当などを企画販売し、食を通じた魅力発信を行います。

④子どもと笑って吉田で暮らすための支援の検討

子ども食堂を軸にした新たな交流の場の提供など、吉田地域で安心して笑って暮らすための取組の検討を行います。



桜島地域

1 管内の現状

(1) 沿革

桜島地域は、本市の東部に位置し、中心部から錦江湾を隔てて約4キロメートルの近距離にあり、地域内のほとんどが溶岩原、山林及び原野で、住宅地は海岸線に沿って帯状に続いています。霧島錦江湾国立公園と県の名勝に指定されており、自然海岸や溶岩原などの独自の貴重な自然環境や景観資源を有しています。

また、大隅半島と陸続きになった大正3年の噴火など、現在も活発に噴火活動を続けており、住民は火山と共存しながら生活しています。

明治22年の市制町村制の実施に伴い、桜島郷が西桜島村と東桜島村に分かれ、東桜島村は昭和25年10月に鹿児島市と合併しました。また、西桜島村は昭和48年5月の町制施行により桜島町に改称し、平成16年11月1日に吉田町、喜入町、松元町及び郡山町とともに鹿児島市と合併しました。

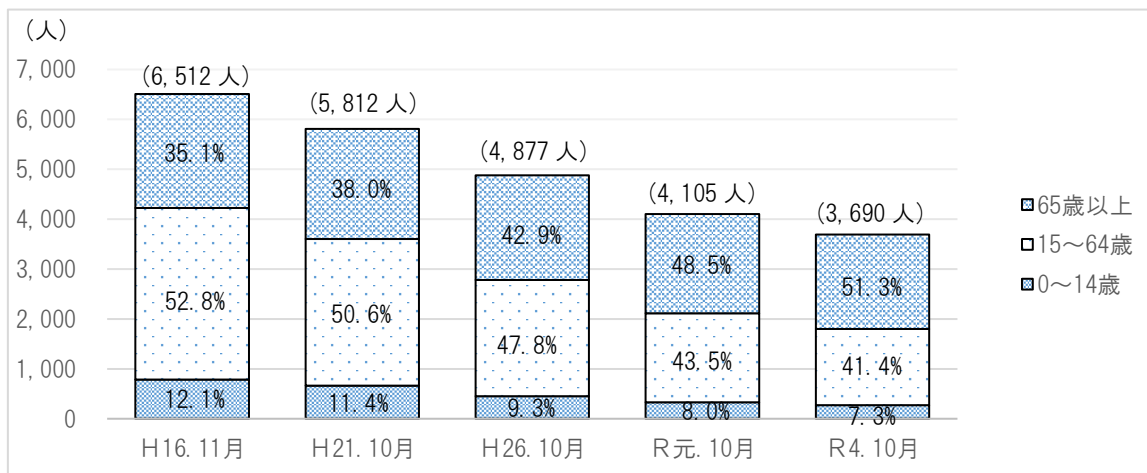
合併後は、改新交流センターの整備や各地域に設立された地域コミュニティ協議会の活動支援など、地域活動の充実を図るとともに、平成31年4月には桜島全体を管轄する桜島支所を設置し、地域一体となった魅力の発信や地域間交流に取り組んでいます。

さらに、地域の特性を生かした桜島ならではの教育を目指し、地域内のすべての小・中学校を統合した義務教育学校の令和8年度設置に向けた取組が進められています。

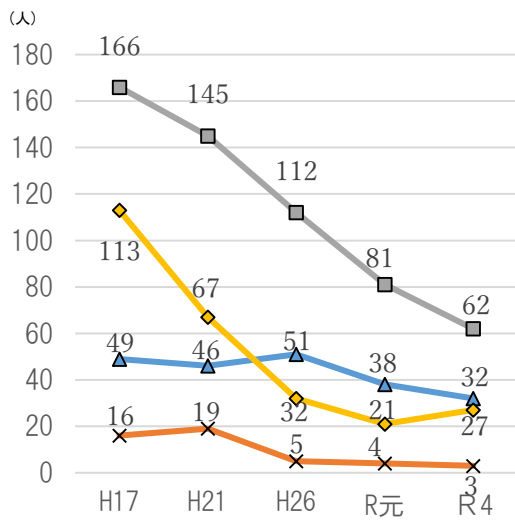
(2) 人口等の推移

地域内の人口は、合併時と比較するとほぼ半減し、人口減少が急速に進んでいます。特に、人口に占める65歳以上の割合は50%を超えており、全市で最も高齢化が進む地域となっています。また、児童生徒数もほとんどの学校で減少傾向にあります。

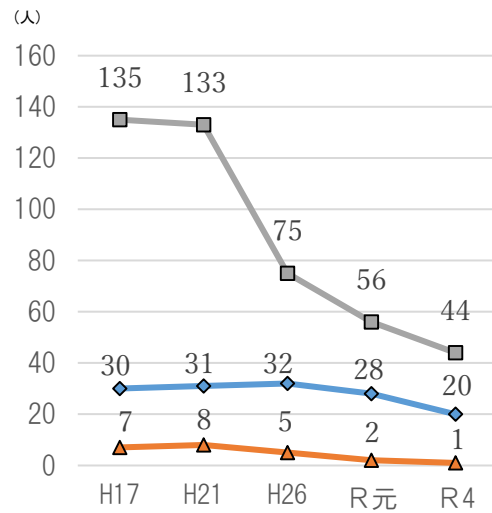
○住民基本台帳人口の推移



○児童・生徒数の推移（各年5月1日現在）








▲ 東桜島小学校 × 黒神小学校
 ■ 桜洲小学校 ◆ 桜峰小学校



◆ 東桜島中学校
 ▲ 黒神中学校
 ■ 桜島中学校

(3) 主な地域資源

<p>桜島小ミカン</p> 	<p>「大きさは小粒、甘さは大粒」といわれ、直径は5センチ足らず、重さは50グラム程度の果実の中に、甘みと香りがギュッと詰まっています。</p> <p>贈答用としても最も人気の高い特産品の一つです。</p>
<p>桜島大根</p> 	<p>200年以上の栽培の歴史を持つ地域の特産物です。</p> <p>収穫最盛期は1月中旬から2月上旬で、1本当たりの重量は平均で10～20キログラムです。</p> <p>味のしみ込みが早く、甘みがあり、柔らかいのに煮くずれしにくいなどの特徴があります。</p>
<p>地域の飲食店</p> 	<p>人口減少や高齢化による事業休止などにより、地域内の店舗数は減少しているものの、近年はカフェやベーカリーショップなどの新たな店舗の開店も見られ、地域の資源となっています。</p>

<p>改新交流センター（古里町）</p> 	<p>平成28年3月、地域住民のふれあいと交流を促進するため、旧改新小学校を「改新交流センター」として整備しました。</p> <p>地域コミュニティ協議会等が中心となり、地域の交流拠点として活用されています。</p>
<p>豊富な観光資源</p> 	<p>桜島の火山や溶岩原など独自の貴重な自然環境や景観資源、温泉など豊富な観光資源を有し、毎年多くの観光客が訪れています。</p>

2 地域懇話会における主な意見等

桜島地域においては、プラン策定に向けた地域懇話会を4回開催しました（開催状況は資料編を参照）。主な意見等は以下のとおりです。

- 地域の飲食店や宿泊業などの事業者が連携することが重要である。また、店舗情報が一目でわかる案内板が桜島港フェリーターミナルにあると、観光客の利便性が向上すると思う。
- 桜島地域にどうしたら来てもらえるか、住みたいと思ってもらえるかが重要であることから、まずは空き家等を活用したお試し住宅のようなものがあるとよい。
- 地域内に特産品の購入や食事ができる場所を増やし、地域の食材等を島内で消費できる仕組みが必要である。また、商品として出荷されない農産物を活用できるとよい。
- バスやフェリーの減便等により買い物や通院が不便となっている。
- 学校教育でデジタルの活用が進んでいることから、スマートフォンなどのデジタル機器を使うことが難しい高齢者への支援を中学生などの若い世代が担うという仕組みを考えるとどうか。
- 義務教育学校の整備に伴う廃校の活用については、早いうちから考えた方がよい。

3 管内の課題

- (1) 人口減少や高齢化等により既存の飲食店や観光等の事業者が減少する一方で、新たな店舗の開業が見られますが、事業者のつながりの機会が少なく、十分に連携できていません。
- (2) 地域内の店舗減少や路線バス、桜島フェリーの減便等により、高齢者等の買い物や通院など、生活における利便性が低下しています。
- (3) 豊富な観光資源を有している一方で、訪問者が桜島の暮らしや文化などの魅力を体験できる場が少なく、地域の魅力が十分に生かされていません。

4 課題解決に向けた方向性等

(1) 目標

地域の活力とにぎわいを創出し、地域住民が桜島地域に住んでよかった、住み続けたいと思える地域を目指します。

(2) 方向性

新たに開業した事業者と既存の事業者が連携・協力し、地域内の資源を活用した取組を進めるとともに、空き家を活用した桜島の魅力を体験できる場を整備し、住民との交流を通じた関係人口・定住人口の拡大につなげます。また、デジタルを活用した生活利便性の向上を図ります。

(3) 事業の展開

①地域の飲食店等の連携による魅力発信

桜島港フェリーターミナル周辺でのマルシェの開催やデジタルサイネージなどを活用した情報発信などに地域の飲食店等が連携して取り組み、地域の活力向上を図ります。

②桜島の魅力体験に取り組む地域団体の支援

関係人口・定住人口の拡大につなげるため、地域団体が行う桜島の暮らし・文化などの魅力体験やお試し移住を含む長期滞在の取組を支援します。

③デジタル化による生活利便性の向上

デジタル技術の活用が買い物支援や移動手段の確保など多くの分野において進んでいる状況を踏まえ、高齢者等の生活利便性向上のために、デジタル機器の日常的な利用に向けた支援体制を構築します。



喜入地域

1 管内の現状

(1) 沿革

喜入地域は、本市の南部に位置し、約8割を占める山地と錦江湾に沿った平坦地で構成され、錦江湾に並行して国道226号やJR指宿枕崎線が通っています。南九州市と接する西の山々は分水嶺になっており、そこを源とする10余りの河川は錦江湾に注ぎ、流域には集落と水田が広がります。また、昭和44年に石油備蓄基地が操業を開始しました。

「喜入」の名は、応永21(1414)年に島津久豊がこの地で上げた戦勝を祝して「給黎^{いれ}」を改めたのが最初です。給黎城の周囲には外城である「麓」が築かれ、喜入^{もとふもと}旧麓地区は当時の雰囲気が残っており、令和元年に日本遺産「薩摩の武士が生きた町」として認定されました。

明治22年の市制町村制の実施に伴い喜入村となり、昭和31年10月の町制施行により喜入村を喜入町に改称し、平成16年11月1日に吉田町、桜島町、松元町及び郡山町とともに鹿児島市と合併しました。

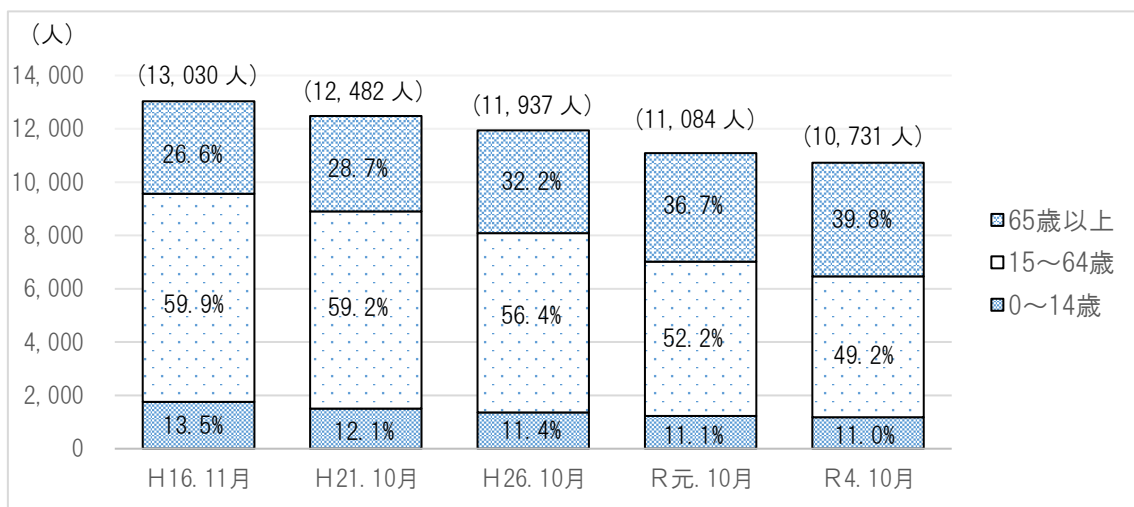
合併後は、平成24年11月に観光農業公園、令和3年10月からプロサッカーチーム「鹿児島ユナイテッドFC」専用のトレーニングセンターの供用が開始されるなど、喜入地域の活性化だけでなく、本市のスポーツ振興や交流人口の拡大につながる取組が進んでいます。

(2) 人口等の推移

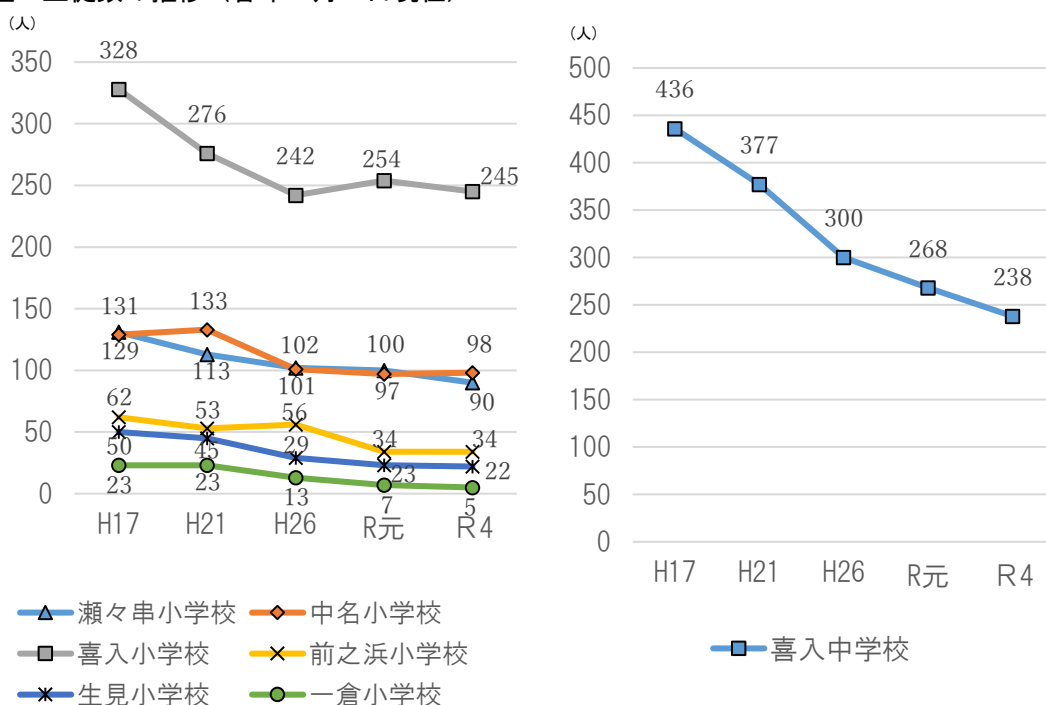
地域内の人口は、合併以降減少傾向にあり、特に15歳から64歳の人口が占める割合が低下しており、地域の産業を支える担い手の不足が懸念されます。

一方、65歳以上の人口は増加傾向にあり、人口に占める割合も39.8%となるなど、人口減少に加え、少子高齢化が急速に進行しています。


○住民基本台帳人口の推移





○児童・生徒数の推移（各年5月1日現在）



(3) 主な地域資源

<p>喜入旧麓地区（喜入町）</p> 	<p>湧水を利用した水路、往時の面影を残す門柱や生垣、石塀が連なるなど、武家屋敷跡の雰囲気を感じることができます。</p> <p>また、豊かな自然と一体となった水辺の景観を望むことができる香梅ヶ淵や、文禄4（1595）年から270年あまり喜入を治めた肝付家歴代の墓があります。</p>
<p>観光農業公園（喜入一倉町）</p> 	<p>都市と農村の交流拠点として、平成24年11月にオープンしました。</p> <p>「グリーンファーム」の愛称で親しまれ、農産物直売所や農園レストラン、交流体験館、キャンプ場、遊具、滞在型市民農園などの施設があり、農業や調理などの体験プログラムが楽しめます。</p>
<p>JR喜入駅（喜入町）</p> 	<p>地域住民の通勤や通学に利用される喜入駅は、「喜びが入る」縁起のよい駅として親しまれており、入場券は「合格祈願」や「安産祈願」などの記念スタンプを押すことで「喜びが入る入場券」として多くの方に幸せを運んでいます。</p>

<p>鹿児島ユナイテッドFCトレーニングセンター（喜入町）</p> 	<p>旧喜入いきいきふれあい広場跡地に整備された施設は、天然芝2面、人工芝1面等を有し、令和3年10月から鹿児島ユナイテッドFCの練習に活用されています。</p> <p>令和5年1月からトレーニングが一般公開されています。</p>
<p>ウミガメ上陸・産卵地</p> 	<p>喜入地域の海岸では、例年5月から7月にかけてウミガメの上陸・産卵が確認され、8月から9月にかけてふ化します。</p> <p>地域の子どもたちと一緒に、ふ化した子ガメが無事に海に帰るのを見守るなど、地域で保護活動を行っています。</p>

2 地域懇話会における主な意見等

喜入地域においては、プラン策定に向けた地域懇話会を4回開催しました（開催状況は資料編を参照）。主な意見等は以下のとおりです。

- 伝統やしきたりを大切にせずして、新しい企画が通りにくい現状がある。そのため、若手リーダーの育成など、若者主体の地域づくりに取り組むことが必要である。
- 喜入地域で使われているフレーズである「喜び入るまち」を大切に、地域づくりをしていきたい。
- 鹿児島ユナイテッドFCが盛り上がれば、地域の活性化につながるし、同FCの選手の引退後の受入態勢ができれば、定住人口の拡大につながると思うので、地域と行政のサポートが必要である。
- 日本遺産の喜入旧麓地区など地域の観光地とJR喜入駅を結ぶ交通手段がないので、レンタサイクルをしてはどうか。
- 生見海水浴場について、喜入旧麓地区や観光農業公園、鹿児島ユナイテッドFCトレーニングセンターを観光した後、足を延ばす環境が整備できないか。また、障がい者や高齢者など誰でも気軽に安心して海で楽しめる「ユニバーサルビーチ」を開催してはどうか。

3 管内の課題

- (1) 人口減少等による空き家や使われていない農地が増加傾向にあるほか、地域づくりを担うリーダーの高齢化と後継者不足などにより、活力やにぎわいが低下しつつあります。
- (2) 喜入旧麓地区や観光農業公園、鹿児島ユナイテッドFCトレーニングセンター、JR喜入駅など、数多くの地域資源に恵まれている一方で、認知度が低く、地域の魅力が最大限に生かされていません。

4 課題解決に向けた方向性等

(1) 目標

空き家や使われていない農地の活用、地域づくりのリーダーとなる若者の育成、地域の認知度や回遊性の向上などの課題解決に向け、地域関係者と広く連携し、特色ある資源などを生かした個性豊かな取組を通じた地域づくりを進めます。

(2) 方向性

JR九州や鹿児島ユナイテッドFCなどの事業者等と連携し、JR喜入駅や同FCトレーニングセンターなどの資源を活用した回遊性の向上などに取り組み、交流人口・関係人口の拡大を図るとともに、地域主体による空き家を活用した拠点の整備を行い、地域の活性化を図ります。

(3) 事業の展開

① 空き家を活用した拠点の整備

喜入旧麓地区にある空き家を活用し、大学や事業者と連携した交流・情報発信の拠点を整備します。また、観光ガイドや飲食の提供などのおもてなし、地域の特産品の販売を通じた住民との交流により、訪問者の満足度向上と交流人口の拡大を図ります。

② 「喜び入るまち」のブランディング

喜入地域で使われているフレーズ「喜び入るまち」のブランディング^{※3}を行い、さらなる魅力向上に向けたロゴを作成するほか、ロゴを活用した商品の制作等に取り組み、地域の認知度の向上を図ります。

③ JR喜入駅を活用した交流拠点の整備

喜入地域の交通の拠点であるJR喜入駅において、新たに企画するオリジナル商品や地域の特産品を販売するほか、訪問者向けのレンタサイクルなどの機能を備えた交流拠点の整備を検討します。

※3 ブランドの独自性が際立ち、多くの人々の心の中に感情移入されるよう、促進していく活動をいう（「流山市ブランディングプラン」参照）。



松元地域

1 管内の現状

(1) 沿革

松元地域は、本市の西部に位置し、多くの丘陵と溪谷からなり、河川沿岸や幹線道路沿道の限られた平坦地と主に山林で構成されています。また、JR鹿児島本線、南九州西回り自動車道や県道等の幹線道路などの交通基盤が充実しており、幹線道路沿いの春山・石谷地域では住宅団地が建設されるなどベッドタウン化が進んでいます。

石谷町の永福寺には市指定文化財の「町田家の墓」が残されています。島津氏の血筋である町田家は、新納家・樺山家と共に島津氏の三大権門と呼ばれ、石谷を領していました。

明治22年の市制町村制施行の実施に伴い、上谷口村、福山村、春山村、直木村、入佐村及び石谷村を統合し、上伊集院村が誕生しました。また、昭和35年4月に松元村への改称と同時に町村制施行により松元町と改称し、平成16年11月1日に吉田町、桜島町、喜入町及び郡山町とともに鹿児島市と合併しました。

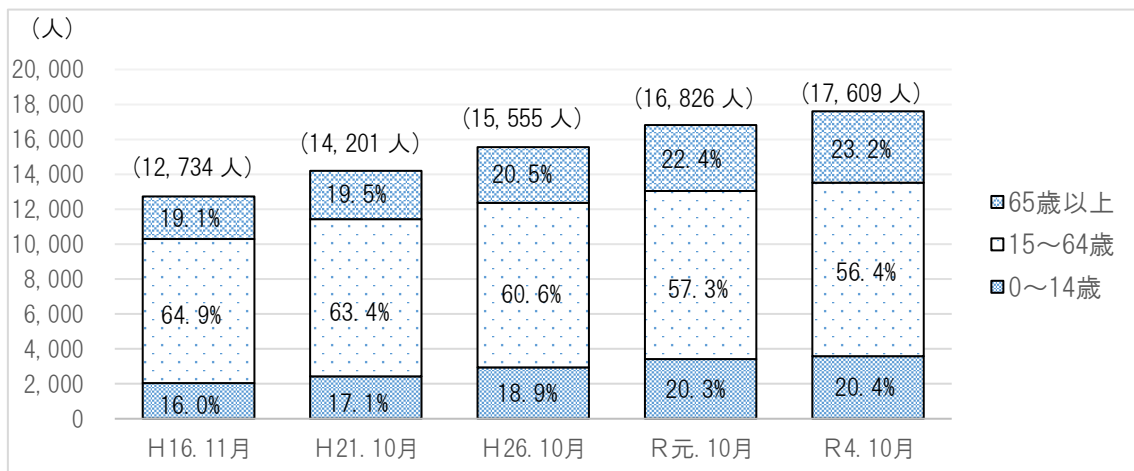
合併後は、豊かな自然環境の中で、松元ダムの水を利用した茶などの生産に取り組むほか、平成27年3月には春山町に都市農村交流センター「お茶の里」が完成するなど都市と農村の交流の促進に取り組んでいます。

(2) 人口等の推移

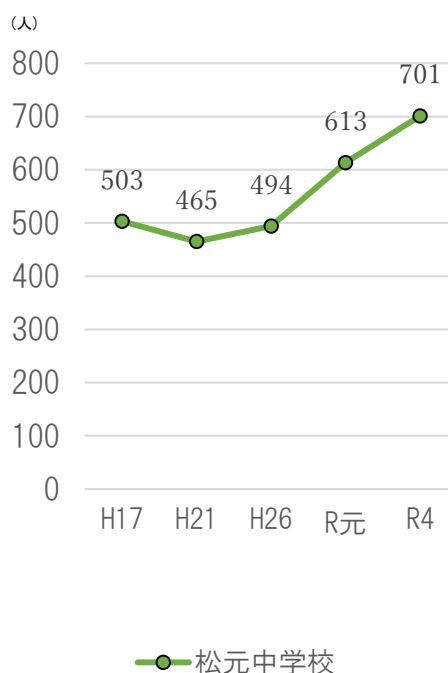
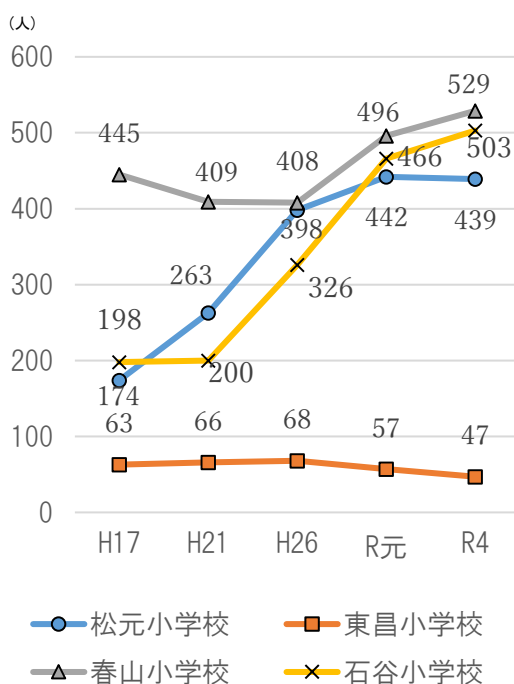
松元地域は年少人口比率が全市で最も高く、人口も増加傾向にあります。

校区別に見ると、子育て世帯向けの県営住宅などが立地する松陽台町を含む松元小学校校区や、ベッドタウン化が進む春山・石谷小学校区においては、人口・児童数ともに増加していますが、東昌小学校区においては、住宅建設などに制限がある農用地区域が多いことなどから、人口減少と高齢化が進み、地域内で二極化しています。

○住民基本台帳人口の推移




○児童・生徒数の推移（各年5月1日現在）



(3) 主な地域資源

<p>都市農村交流センター「お茶の里」(春山町)</p> 	<p>都市と農村の交流を促進し、農村地域の活性化を図るための施設です。施設内には茶をはじめ地元の新鮮野菜等を販売する直売所や飲食施設、茶手もみやそば打ち体験等もできる交流室、地域の特産物などを紹介する情報スペースのほか、芝生広場や子どもたちに人気の遊具等もあり、気軽にグリーン・ツーリズムを楽しめます。</p>
<p>松元平野岡体育館（上谷口町）</p> 	<p>卓球競技等に適した無風空調設備を完備した体育館のほか、多目的屋内運動場やグラウンド・テニスコートなどのスポーツ施設と温泉が併設され、スポーツで汗をかいた後、リフレッシュすることができます。また周辺には数百本の桜が植えられ、見ごろには多くの人でにぎわいます。</p>
<p>町田久成 (1838年～1897年)</p>  <p>【鹿児島県立図書館所蔵】</p>	<p>石谷を治めていた町田家の長男として生まれ、慶応元(1865)年に薩摩藩英国留学生を率いて英国へ渡りました。帰国後、廃仏毀釈の嵐で文化財破壊が広がる風潮を憂い、文化財保護の重要性と博物館の建設を建議し、帝国博物館(現・東京国立博物館)の初代館長に就任しました。</p>

<p>茶畑</p> 	<p>松元地域では、古くから茶が特産物として栽培されており、江戸時代には島津氏に献上された記録が残っています。</p> <p>寒暖差の激しい松元地域の気象条件により、味・香り・色が優れているのが特徴です。</p>
<p>県立松陽高等学校</p> 	<p>昭和58年4月、多様なコースを有した普通科高校として開校し、平成7年度には音楽科・美術科が新設され、本県の高等学校芸術部門の拠点校となりました。</p> <p>文化系の部活動は大会やコンクールで高い実績を収めるほか、体育系の部活動も活躍しています。</p>

2 地域懇話会における主な意見等

松元地域においては、プラン策定に向けた地域懇話会を4回開催しました（開催状況は資料編を参照）。主な意見等は以下のとおりです。

- 松元地域は子育て世代の人口は増加しているが、親世代は地域とのつながりが弱いので、親世代にも地域の良いところに興味を持ってもらうきっかけとなるようなイベントなどが必要である。
- 松元平野岡体育館で卓球のプロリーグ（Tリーグ）などの大会が開催されるのを契機に、交流促進や健康維持に卓球が活用できればいいと思う。また、大会開催時に合わせた地元飲食店の出店などの取組ができればよい。
- その他のスポーツについては、学校やクラブチーム等の活動を見ながら、駐車場の広い松元平野岡体育館を活用した大会の開催に向けて検討してほしい。
- 地域の特産である茶業は、後継者不足の問題を抱えている。移住を考えている人や地方でのスローライフを目指す人たちが茶に触れる機会ができれば貴重な体験になるのではないかと。また、茶やナスなど地域の特産品を生かした商品開発などの取組も進めてはどうか。
- 松元地域は若い世代の割合が高い。地域内にある松陽高等学校と連携した取組を進めても良いのではないかと。

3 管内の課題

- (1) 子育て世代の流入による人口の増加が見られる一方で、価値観や生活様式の多様化による地域のつながりや関心の希薄化が見られ、地域の一体感が低下しています。
- (2) 松元地域は市内における茶の主要産地ではありますが、県内市町村別の荒茶の生産量は6位で、シェア率も4%程度にとどまっており、ブランド力や発信力の強化が求められています。
- (3) 合併以前は平成7年の「卓球のまち宣言」のほか、地域内でスポーツ大会も数多く開催されるなど、住民の健康づくりやコミュニティの形成にスポーツが寄与していましたが、合併後は活動が低調に推移しています。

4 課題解決に向けた方向性等

(1) 目標

住民と行政が共創し、松元地域の活性化を推進し続けられるような仕組みを構築するとともに、人と人とのつながりを感じられる一体感のある地域づくりに取り組みます。

(2) 方向性

特産品である茶をはじめとした地域資源のほか、スポーツ、文化・芸術を活用することで、にぎわいの創出や住民相互の交流、地域の活性化を推進します。

(3) 事業の展開

①松元の魅力を発信するイベント等の開催

松元のPRと地域内外の交流促進を図るため、地域団体等が中心となり、特産品の茶を活用した料理の企画販売のほか、地域コミュニティ協議会などの活動PRや松陽高等学校をはじめとする地域内外の出演者によるステージなど、魅力を発信するイベント等を開催します。

②スポーツを活用した交流の促進

Tリーグや「燃ゆる感動かごしま国体」の卓球競技の開催を契機に、地域のスポーツクラブの活動などを踏まえ、卓球を生かした地域内外の交流促進に取り組みます。また、地域におけるフットサルなどのスポーツの取組状況や将来性を調査し、スポーツを生かした活性化の方策を検討します。

③地域の団体や高校との連携による魅力の創出

松陽高等学校の生徒と住民によるアート作品の制作・展示に取り組むとともに、松元地域出身の「町田久成」の功績を顕彰する団体の取組を支援し、魅力の創出を図ります。



郡山地域

1 管内の現状

(1) 沿革

郡山地域は、本市の北西部、甲突川の上流部に位置し、東に花尾山・三重岳、北に八重山があり、河川沿岸や幹線道路沿道の限られた平坦地と主に山地で構成されています。

また、地域内は八重の棚田や花尾神社など、自然、景観、歴史、温泉などを有しており、森林や農地などの豊かな自然環境の中で、ニガウリや早掘りタケノコなどの特産農産物等の生産、子牛生産を主体とした肉用牛経営や酪農が行われています。

明治22年の市制町村制施行の実施に伴い、郡山村、西俣村、油須木村、厚地村、東俣村及び川田村が統合し、郡山村が誕生しました。また、昭和31年9月に郡山村と下伊集院村の一部（有屋田・嶽）の合併により郡山町に改称し、平成16年11月1日に吉田町、桜島町、喜入町及び松元町とともに鹿児島市と合併しました。

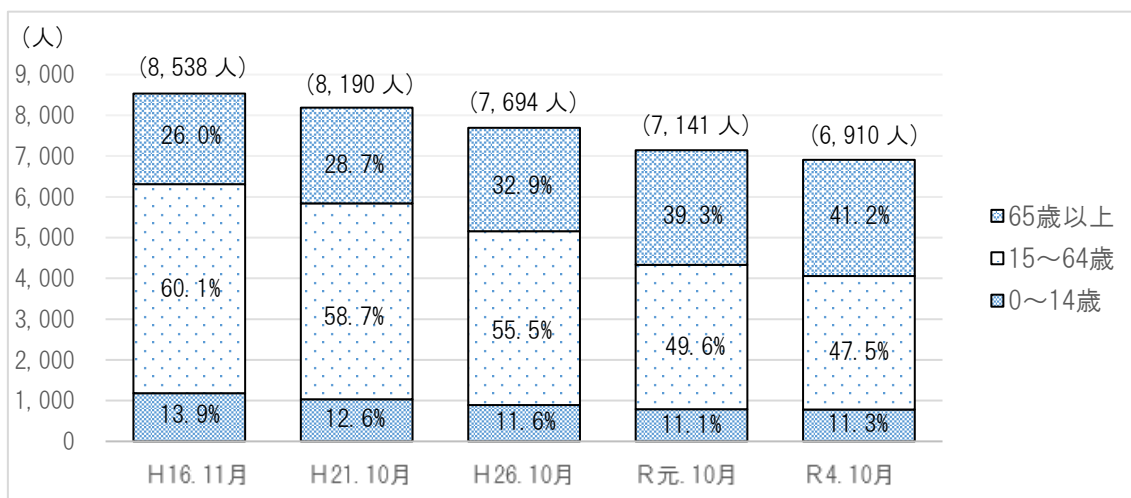
合併後は、平成8年3月から施行している郡山中央地区土地区画整理事業の推進により、生活環境の充実が図られているほか、平成28年1月に郡山体育館が開館し、隣接するスパランド裸・楽・良や郡山総合運動場などのスポーツ・レクリエーション施設との一体的な活用が図られています。また、交流事業を通じた地域間交流の促進に取り組んでいます。

(2) 人口等の推移

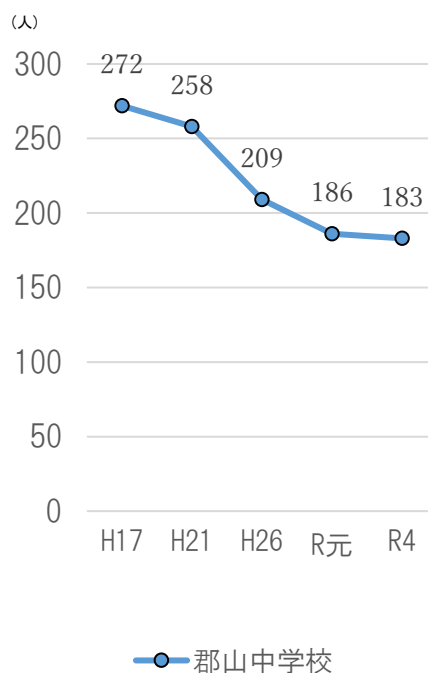
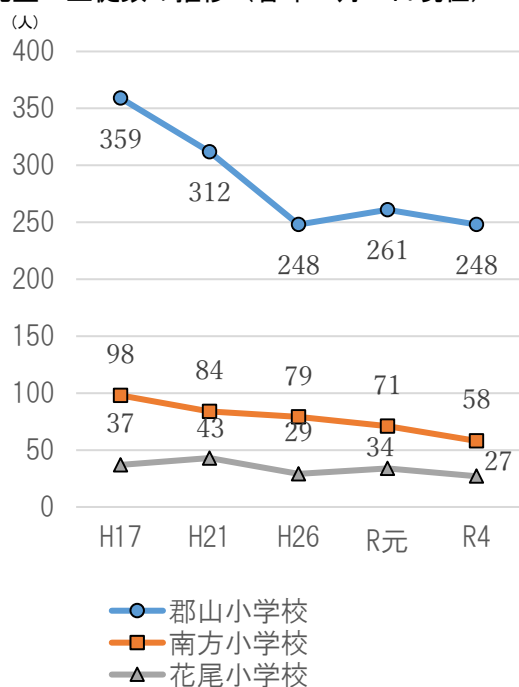
地域内の人口は、合併以降減少傾向にあり、現在では7,000人を下回っています。また、65歳以上の人口は増加しており、人口全体に占める割合は41.2%と高い比率となっています。

さらに、0歳から14歳の人口の割合が低下し、合併時と比較すると児童生徒数は減少しており、複式学級となっている小学校もあるなど、少子高齢化が進んでいます。

○住民基本台帳人口の推移



○児童・生徒数の推移（各年5月1日現在）



(3) 主な地域資源

<p>花尾神社（花尾町）</p> 	<p>花尾山の麓にあり、きらびやかな社殿は、日光東照宮に似た美しさから「薩摩日光」と称されています。</p> <p>源頼朝と島津氏初代忠久の母・丹後局を祭っており、創建は源頼朝の尊像を安置した建保6（1218）年と言われ、平成14年に県の有形文化財（建造物）に指定されました。</p>
<p>八重の棚田（郡山町）</p> 	<p>八重山の裾野の傾斜地に、階段状に石を積んで形成された約240枚の水田が美しい景観を形成し、市の景観形成重点地区に指定されています。</p> <p>また、近くには市街地を流れる甲突川の源流（甲突池）があります。</p>
<p>スパランド裸・楽・良（東俣町）</p> 	<p>温泉を備えた複合施設で、11種類の入浴ゾーンが楽しめるほか、レストランや宿泊施設等も併設されており、年間約16万人が利用しています。</p> <p>また、郡山地域にはその他にも4つの温泉施設があり、多くの人を訪れています。</p>

<p>彼岸花ロード</p> 	<p>郡山地域では、群生する彼岸花が毎年秋に咲き誇り、中でも川田川沿いの「彼岸花ロード」では、彼岸花と黄金色の稲穂が織りなす景観が散策や鑑賞に訪れる人の目を楽しませてくれます。</p>
<p>八重山公園（郡山町）</p> 	<p>コテージやキャンプができる多目的広場、宿泊研修に利用できる交流促進センター「てんがら館」のほか、野外ステージや展望広場などを備えた公園です。 桜島や錦江湾を一望できる絶好のロケーションで、開聞岳も望むことができます。</p>

2 地域懇話会における主な意見等

郡山地域においては、プラン策定に向けた地域懇話会を4回開催しました（開催状況は資料編を参照）。主な意見等は以下のとおりです。

- スパランド裸・楽・良など地域に所在する温泉施設を活用し、訪問者の誘致ができればよいのではないか。
- 郡山地域は豊かな地域資源があるが、訪問者が1カ所だけでなく、地域内の他の場所にも訪問してもらえるような仕組みを構築すべきである。
- 甲突池や八重の棚田などでの自然を身近に感じられる体験は、地域外の子育て世代から喜ばれる。
- 花尾神社で開催される「^{あり}蟻の花尾詣」や地域の郷土芸能などを若い世代に知ってもらうには、SNSを活用した情報発信を行い、訪問意欲をかきたてることが重要である。
- 5月末の田植えのころ、水田が鏡のようになり、花尾神社の鳥居が逆さに見えることがあるように、季節や景色が相乗効果を生み出し、記憶に残ることもあると思う。

3 管内の課題

- (1) 地域内には花尾神社や八重山公園などの史跡・名所のほか、八重の棚田を代表とする景観、温泉などの豊富な資源がありますが、その魅力の磨き上げや資源の回遊性、情報発信が不足しており、十分に活用されていません。
- (2) 地域内では特産農畜産物のほか、カボス・小松菜を活用した加工品の生産が行われていますが、認知度が低く、イベント等を通じた販売の機会や地域内外への発信が十分ではありません。

4 課題解決に向けた方向性等

(1) 目標

自発的かつ持続的で魅力ある地域づくりを進めることにより、地域住民の生活を豊かにし、活気ある地域を目指します。

(2) 方向性

豊富な地域資源を生かしたコンテンツ等を創出し、点在する資源を有機的につなぐことで訪問者の満足度を高め、交流人口の拡大を図ります。また、住民が主体的に関わる地域づくりに取り組みます。

(3) 事業の展開

①地域の資源を活用した新たなコンテンツ・商品の開発

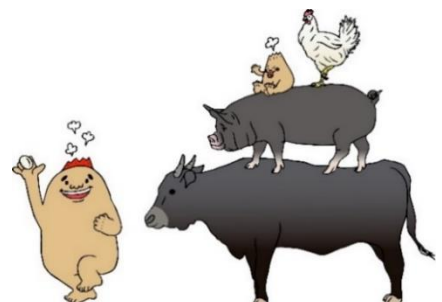
地域内に点在している史跡・名所や温泉、景観などの資源を活用し、スパランド裸・楽・良を拠点としたレンタサイクルや史跡めぐり、自然体験など新たなコンテンツを創出するとともに、地域の農畜産物を活用した商品開発による魅力の発信に取り組み、回遊性や訪問者の満足度の向上による交流人口の拡大を図ります。

②地域住民が主体となった取組の促進

花の栽培による地域のイメージアップを図るほか、地域の特産品などをPRする新たなイベントを開催します。

③住民主体によるデジタルを活用した情報発信

住民自らがグーグルマップ等のサービスを活用した最新の情報発信に取り組むための支援を行い、滞在時間の拡大による訪問者の周遊促進を図ります。



Ⅲ 連携事業

1 目的

合併地域全体の回遊性の向上や魅力発信の機能強化を図るため、支所の事業と連携し、共通の資源（食や景観など）を活用した魅力を創出する取組などを行い、合併地域への関心と訪問意欲を高めます。

2 事業の対象

国の調査で関係人口の出現率が高く、新型コロナウイルス感染症の影響で、豊かな自然や地方への関心が高いとされる若年層（主に20代から30代）とします。

3 事業の展開

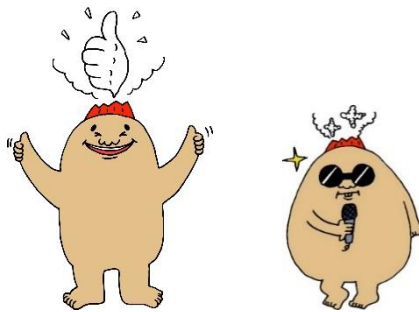
(1) インスタグラムを活用した情報発信

若年層の利用率が高いインスタグラムを活用し、令和4年10月に開設した公式インスタグラム「#ここかご」を運用します。また、インスタグラムユーザーが興味を持った合併地域の魅力について「#（ハッシュタグ）」を付けた投稿を促進し、他のユーザーが#検索を行うことで、多彩な魅力に触れる機会の創出に取り組みます。



(2) 合併地域共通の資源を活用した魅力創出

豊富な資源を有する合併地域において、特に共通する食や景観、歴史などの資源を活用し、市内の学校や事業者と連携を図り、合併地域の食材を用いた新たなメニューを考案するほか、ドローンを活用した景観などの情報発信等、市中心部と異なる「特別」で「意外性」に富んだ魅力の創出に取り組み、交流人口の拡大を図ります。



資料編



各支所地域懇話会の開催状況

1 吉田地域

年月日	回数	内容
令和4年 6月30日	第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力・活力共創事業及び地域懇話会の概要について ・「地域活性化計画」の位置づけ及び策定について ・地域活性化計画に基づく事業（素案）について
令和4年 7月28日	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回懇話会における意見等に対する方向性について ・地域活性化計画に基づく事業（案）について ・現地視察
令和4年 12月1日	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化計画（案）について ・地域活性化計画に基づく事業（案）について ・現地視察（旧吉田小学校跡地）
令和5年 2月8日	第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と共に創るまちづくりプラン（仮称）（案）について ・プランに基づく事業の実施について

2 桜島地域

年月日	回数	内容
令和4年 6月23日	第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力・活力共創事業及び地域懇話会の概要について ・桜島地域の地域課題と課題解決の方向性等について
令和4年 8月18日	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題解決の方向性について ・地域課題解決に係る取組について ・地域活性化計画（素案）について
令和4年 10月6日	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化計画（案）について
令和5年 2月9日	第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と共に創るまちづくりプラン（仮称）（案）について

3 喜入地域

年月日	回数	内容
令和4年 6月24日	第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力・活力共創事業及び地域懇話会の概要について ・喜入地域の地域資源及び課題について ・地域課題解決の方向性について
令和4年 8月8日	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化計画の素案策定について ・計画に基づく事業の検討について
令和4年 10月12日	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化計画の素案策定について ・計画に基づく事業の検討について
令和5年 2月8日	第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と共に創るまちづくりプラン（仮称）（案）について

4 松元地域

年月日	回数	内容
令和4年 6月24日	第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力・活力共創事業及び地域懇話会の概要について ・松元地域の現状と課題について ・地域活性化計画の方向性及び取組の概要について
令和4年 8月31日	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・松元地域の活性化に向けた目標と方向性について ・施策の概要について
令和4年 10月27日	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の事業概要について
令和5年 2月21日	第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と共に創るまちづくりプラン（仮称）（案）について ・令和5年度以降の事業推進について

5 郡山地域

年月日	回数	内容
令和4年 6月28日	第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力・活力共創事業及び地域懇話会の概要について ・郡山地域の現状と課題について ・課題解決に向けた方向性及び対応について
令和4年 9月6日	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・委員からの提案書及び意見の対応方針（案）について ・地域活性化計画（素案）について ・計画に基づく施策の概要・事業（案）について
令和4年 10月18日	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化計画（案）について ・計画に基づく施策の概要・事業（案）について
令和5年 2月7日	第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と共に創るまちづくりプラン（仮称）（案）について ・プランに基づく施策の概要・事業（案）について



各支所管内の振興に係る地域懇話会設置要綱

(設置)

第1条 吉田支所、喜入支所、松元支所、郡山支所及び桜島支所（以下「各支所」という。）管内（鹿児島市役所支所設置条例（昭和42年条例第8号）別表に規定する各支所の所管区域をいう。以下同じ。）の振興に係る地域懇話会（以下「懇話会」という。）を設置する。

(地域懇話会の名称)

第2条 各支所に設置する懇話会は、次の各号に掲げる管内に応じ、当該各号に定めるところによる。

- (1) 吉田支所管内 吉田支所管内の振興に係る地域懇話会
- (2) 喜入支所管内 喜入支所管内の振興に係る地域懇話会
- (3) 松元支所管内 松元支所管内の振興に係る地域懇話会
- (4) 郡山支所管内 郡山支所管内の振興に係る地域懇話会
- (5) 桜島支所管内 桜島支所管内の振興に係る地域懇話会

(所掌事項)

第3条 懇話会の所掌事項は、次に掲げる事項に関し、意見を述べることとする。

- (1) 管内に係る地域活性化計画（以下「計画」という。）の策定に関すること。
- (2) 計画に基づく事業の推進に関すること。
- (3) その他計画の達成に必要な事項に関すること。

(組織)

第4条 懇話会は、第2条各号の懇話会において委員10人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

- (1) 管内に所在する団体等の代表者又は構成員
- (2) 管内に居住する満18歳以上の者で公募に応じたもの
- (3) その他市長が必要と認めるもの

3 委員の任期は、委嘱された日から1年とする。ただし、再任を妨げない。

(会議)

第5条 会議は、第2条各号の懇話会において第7条各号に定める総務市民課が必要に応じて招集する。

2 会議は、第2条各号の懇話会において委員の過半数の出席がなければ開くことができない。

3 前項の規定にかかわらず、緊急を要する場合その他やむを得ない理由により会議を招集することが困難な場合は、各委員が書面により意見を表明する方法により審議を行い、その結果をもって会議の議事に代えることができる。

4 第1項の会議について、必要があると認めるときは、委員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。

(報償金)

第6条 委員が会議に出席したときは、予算の範囲内で市長が定める報償金を支払うことができる。

(庶務)

第7条 懇話会の庶務は次の各号に掲げる懇話会に応じて、当該各号に定める総務市民課において処理する。

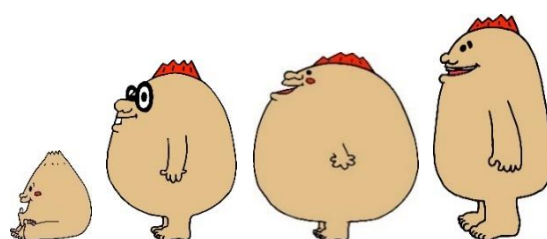
- (1) 吉田支所管内の振興に係る地域懇話会 吉田支所総務市民課
- (2) 喜入支所管内の振興に係る地域懇話会 喜入支所総務市民課
- (3) 松元支所管内の振興に係る地域懇話会 松元支所総務市民課
- (4) 郡山支所管内の振興に係る地域懇話会 郡山支所総務市民課
- (5) 桜島支所管内の振興に係る地域懇話会 桜島支所桜島総務市民課

(その他)

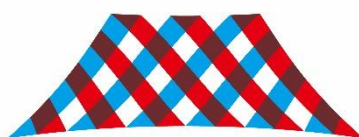
第8条 この要綱に定めるもののほか、懇話会の運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

付 則

この要綱は、令和4年4月1日から施行する。



あなたとわくわく



マグマシティ 鹿児島市

地域と共に創るまちづくりプラン

2023年3月策定

発行・編集 鹿児島市

市民局市民文化部地域づくり推進課	(電話	099-808-2815)
市民局吉田支所総務市民課	(電話	099-294-1211)
桜島支所桜島総務市民課	(電話	099-293-2346)
東桜島総務市民課	(電話	099-221-2111)
喜入支所総務市民課	(電話	099-345-1111)
松元支所総務市民課	(電話	099-278-2111)
郡山支所総務市民課	(電話	099-298-2111)

Eメール chiikizukuri@city.kagoshima.lg.jp



ホームページ